

私のテーマチック収集から 古代日本の切手・消印 蜂谷紀之

私の行っている科学・歴史関連のテーマチック収集から、ここでは、昨年の支部切手展などでも一部展示した日本古代史の遺跡・遺物を描く切手・消印を紹介します。

縄文時代の大規模集落遺跡としては、青森市にある三内丸山遺跡が有名で、縄文時代中期(紀元前約 3,900～2,200 年ころ)の竪穴住居をはじめとする建物跡や土器・石器などが出土しています。青森西局の風景印(図 1)には、遺跡のシンボルとなっている復元された大型掘立柱建物が描かれています。

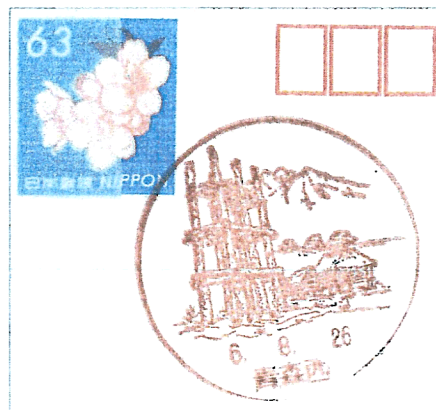


図1 青森西郵便局風景印

秋田県鹿角(かづの)市の大湯郵便局風景印(図 2)には大湯環状列石(ストーンサークル)が描かれます。縄文時代後期(約 4,000 年前)のものとされています。風景印で手前に目立つように描かれているのは「日時計」と言われるものです。環状列石本体は二つあり、一つは日時計の周囲に一部が描かれており、もう一基は奥にある二重の環状に並べられた列石構造です。両者の長径は 44～52 メートルあります。これらは、三内丸山遺跡などとともに、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界遺産に登録されています。



図2 秋田県大湯郵便局風景印

弥生時代に入ると農耕による食糧生産が始まり、稲作が広がります。佐賀県神埼郡の吉野ヶ里遺跡は弥生時代としては日本最大規模の環濠集落の遺跡で、周囲は深さ 3～5 メートル、全長一キロの大環濠(大堀)で囲まれていました。ここには紀元前5世紀から紀元3世紀までの約 700 年間にわたる集落などの遺構・遺物が大量に残されています。吉野ヶ里遺跡を描く 6 種類の切手を図 3～8 に紹介しま



図3 ふるさと切手「吉野ヶ里遺跡」1991.4.12

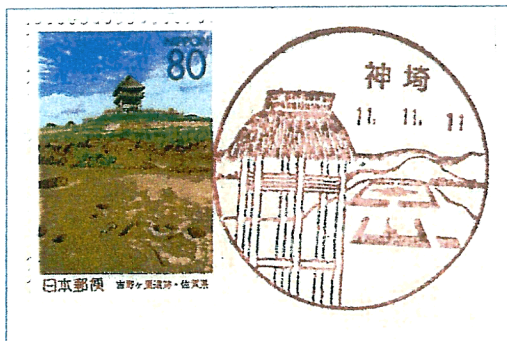


図4 ふるさと切手「吉野ヶ里遺跡」1999.11.11 初日印押



図5 20世紀第16集 吉野ヶ里遺跡発掘 2000.11.22



図6 地方自治法60年
佐賀「吉野ヶ里遺跡」
2011.1.14



図7 史跡名勝保護
100年「吉野ヶ里遺
跡」 2020.7.17



図8 第78回国民スポーツ
大会・佐賀県「吉野ヶ里遺
跡」 2024.9.4



図9 第3次国宝第1集
より「獣帯鏡」
2020.5.29

す。復元された物見櫓(望楼ぼうろう)や3階建ての主祭殿などが描かれます。このうち図4は佐賀県神埼局の初日(平成11年11月11日)風景印が押印され、これには、物見櫓とともに発掘された墳丘墓が描かれています。

図9は和水町の江田船山古墳から出土した「獣帯鏡」で、中国(宋)の青銅鏡です。古墳時代は3世紀中頃から7世紀までですが、江田船山古墳は5世紀後半に造られた前方後円墳です。ここからは青銅鏡のほか、朝鮮の冠・耳飾りなどの装飾具や、よろいなど国産の武具をはじめ国内外からの多数の副葬品が見つかっています。

江田船山古墳の周囲には、菊水郵便局風景印(図10)

に描かれるように、よろいを着けた武人の石像が配置されています。これは、筑紫の大豪族・磐井の墓である岩戸山古墳(福岡県八女市)と同様の様式です。なお磐井は527年、朝鮮半島を巡る大和朝廷の政策に反乱を起こします。大和朝廷の拠点があった任那(伽耶)が新羅に攻撃されたとき、朝廷は6万の軍隊を派遣しました。磐井はこれを妨げようとして派遣軍と戦ったのですが、翌年に鎮圧されました。当時、九州北部の豪族が中国大陆・朝鮮と独自の交易を行っていた一方、大和朝廷による中央集権化が強化されていた状況が伺えます。

埴輪は古墳の墳丘に置かれたものです。もっとも有名な埴輪は普通切手の図案にも採用された国宝の「馬形埴輪」(65円)と「挂甲の武人」(200円、210円)でしょう。大牟田市の九州国立博物館で現在開催中(5・11まで)の「特別展 はにわ」では、アメリカ帰りを含む4体の挂甲の武人や江田船山古墳で発掘された青銅鏡(図9とは別品)・装飾品・武具なども展示されています。

熊本支部報は400号を迎えましたが、郵趣を取り巻く状況は大きく変化しています。今後の郵趣の発展を考えると、伝統郵趣はもちろん、テーマチック郵趣などももっと広めて、興味の対象者の範囲を広げて行くべきと考えます。



図10 菊水郵便局風景印